

第3回 夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略策定委員会

議 事 概 要

日時：平成28年3月7日（月） 18:00～21:00

場所：夕張市市民研修センター2階 大会議室

1 開会

2 議事

(1) 夕張市地方人口ビジョン（素案）について説明・議論

(質疑・意見・要望・感想等)

- 折角なので、全員から一言ずつ、人口ビジョンについての意見・感想をもらってはどうか。
 - ・人口ビジョン単独で見るのではなく、ここで示されたビジョンに対して、総合戦略で何を実施するかが大事。総合戦略と合わせて見ていきたい。
 - ・少子化は日本全国に共通の課題であるが、夕張市においては子どもの医療費無料化に係る課題等もあり、こうした課題への取り組みが着手の真剣度を測る目安になるように感じた。
 - ・「なんとなく」人口は減っていくと感じていたが、数字が明示されることにより具体的に認識することができた。同時に「自分に何ができるか」改めて考えるきっかけとなった。
 - ・夕張の魅力を高めることで、定住の促進・交流人口の増加をはかり、人口減少を少しでも抑制していきたい。
 - ・少子化の大きな要因の一つは、父母が安心して子ども育てられる環境の有無にあると感じる。保育料の引き下げ等、目に見える形での子育て環境の充実が必要。
 - ・人口減少社会で地域に人が戻ってくるために、あるいは地域の人口減少を抑制するために、自分という個人に何ができるかを考える機会となった。
 - ・自分にとっての故郷なので、年月を経ても良い場所であってほしい。そのために自分に何ができるかを考えるきっかけとなった。
 - ・夕張が持つ資源を活かし、安定した収入を得られる雇用を創出することが、人口減少の抑制に繋がると考える。
 - ・一市民として「住みよいまちづくり」に関わっていくとともに、夕張メロンが地理的表示保護制度の登録を受けたことを活かし、夕張に役立てていきたい。
 - ・取り組みを通じて、安定して暮らしていけるかが重要。
 - ・議員として何ができるか、ということも含めて考えながら携わっていきたい。
 - ・今回策定に関わった各委員が、「策定して終わり」ではなく、今後も施策の進捗状況のチェック等、継続的に関与できる形があるとよい。
 - ・今後の具体的な取り組み内容が重要。

- ・第1回の議論を通じて明確な課題が出ていたので、今後誰がどう行動していくかという具体的話ができればよい。
- ・今後の人口減少に伴い商店・飲食店の減少は避け得ないと思うが、人口の構成（年齢階層ごとの人口）が重要になってくると思う。「今、自分に何ができるか」ということはまだ具体的に見えてはいないが、皆で何かをやっていく、という姿勢が重要だと思う。
- ・夕張市には、現に水道料金や市民税が他市町村に比べて高いという、いわばリスクがある。仮に世帯の所得が低くても生活していけるような仕組みづくりが大事だと思う。
- ・人口ビジョンそのものについてどう思うかということより、示された状況に対して、どう取り組んでいくかが重要。
- ・「自分らしく暮らせるまち」というフレーズはとても良いと思う。
- ・現状、国や道では高齢者が増加傾向にあるのに対して、既に夕張市は減少傾向にあるということは、改めて市の状況を象徴していると思う。
- ・「挑戦」という言葉を最近使っていないな、と感じた。よい言葉だと思う。
- ・「早期対応の必要性：『いつかやらねば』を『今すぐやる』へ」という言葉があるが、平成24年3月に策定した「まちづくりマスタープラン」で既に人口が半減する可能性を示唆しているながら、今更言うのか？という感がある。
- ・夕張での生活は本当に苦しく、どうやったら「自分らしく暮らせるまち」になるのか疑問。言い方が悪いかもしれないが、綺麗事ではないかと感じる。
- ・何かを実施しようとするればお金がいると思うが、財政再生団体である夕張市は、国や道と交渉し、予算を確保していく必要がある。その先頭に立ち、ネゴシエーターとして活動するはずの市長は、どのような温度でそこに取り組んでいるのか、という点が気にかかる。
- ・多くの高校が厳しい状況に直面している。夕張高校についても、市内の子どもだけで維持することは難しい。他地域からも子どもを呼ぶことができる、魅力的な高校をつくることが重要。
- ・示された状況を受け止め、アクションプランをいかに実行していくかが重要。また、行政はもちろん、市民を巻き込んで実施していく必要がある。
- ・先日、函館在住で初めて夕張を訪れ、一日滞在しマウントレースイスキー場を利用した子がいたが、その子はわずか一日の滞在で「夕張高校に進学し、夕張に住みたい」と話してくれた。冬休みや春休みの期間を利用して夕張を訪れ、その後定住の意向を示してくれる子もいる。個々に事情が異なり、そのメリットに合致すれば、夕張に住んでくれる人はいる。統計としての減少傾向にあることは確かだが、一方で個々の要素に着目すると、転入を増やせる要素も確かにあると思う。

(2) 夕張市地方版総合戦略（素案）コンセプト及び基本理念について説明

(3) 夕張市地方版総合戦略(素案)【戦略1】について説明・協議

(質疑・意見・要望・感想等)

- 「②子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業」に係り、住宅は簡単に建てられるものではないので、支援は有り難いと思う。一方で、夕張市は固定資産税も他市町村に比べて高額であると思うので、その減免措置等も合わせて検討されるのだろうか。

(事務局回答)

⇒ 原則として、固定資産税額は自治体によって大きく異なるものではなく、また税の公平性という観点からも、減免措置は現状考えていない。

税額相当分程度を目安に、子育て世帯の生活支援としてプレミアム商品券等の交付をできないか、等の検討は行っている。

- 「基本的な方向」の数値目標は、どのような基準で設定しているのか。

(事務局回答)

⇒ 市内企業の採用状況等を聞くと、おおむね採用から約2年程度で所得増等の状況変化により、最初に居住していた市営住宅から、転居する必要がある傾向にあるという。こうした状況をふまえ、市内企業の今後の採用計画や、現にニーズと合わない公営住宅に我慢して住んでいる人等の状況を鑑み、設定している。

(質問者より再質問)

⇒ 現に市内に居住している人をメインターゲットとしているようだが、門戸を狭めず、広く広報し、移住を促進するべきでは？

(事務局回答)

⇒ 全く新規の定住者確保も当然に大切だが、今まさに住居を確保できず、転出を余儀なくされている人の住居を確保することが、最優先で解決すべき課題であると認識している。

- 「①若年層・女性向け低家賃賃貸住宅の整備」に係り、公営住宅の制限撤廃は考えていないのか。

(事務局回答)

⇒ 非常に多くいただくご意見であり、過去に検討も行ってきたが、実態として古い住宅が多く、入居可能な状態にするためには相応の修繕が必要となり、経費を要する。仮に修繕を行っても住宅そのものに対する満足度は決して高くなく、すぐに転出していってしまう例が過去に数多くあった。こうした修繕費や継続的な維持管理に係る費用負担等が市政を圧迫している経緯がある。

仮に市営住宅の補修に費用を投じるのであれば、同じ額を民間賃貸住宅の建設促進に投入した方が、より入居者にとって満足度が高く、市の継続的負担もない住宅の数を増やしていくことができることから、民間賃貸住宅の建設促進を積極的に進める考えである。

一方で状態の良い公営住宅もあることから、選択的に整備を行い、一部を市営の賃貸住宅として居住体験等に活用することも検討している。

- 「④認定こども園の整備」は現状どこまで進んでいるのか。また、市内の保育園すべてを一園に統合する形で検討されているのか。

(事務局回答)

⇒ 保育士の方から「どういう保育施設があるべきか」というディスカッションを行っており、運動能力を高められるよう、広い空間を活かして遊べる環境、好奇心を促すような環境など、地域の良さを活かした施設になるよう、議論・検討を行っている。また、現状では「認定こども園」としては、老朽化した清陵保育園とユーパロ幼稚園を統合し、市の中央部に一園を整備するべく検討しているが、その他に南北の保育園は維持する形で考えている。よって、市内の幼稚園・保育園を一気に一つに統合する、という考え方ではない。

- 「⑩こども一時預かり機能強化」に係り、他市町村では、小学校の半分を保育園として使用し、また隣接する子育て支援センターに一時預かり機能を持たせている例もある。廃校を活用すれば施設の新造も必要ないと思うので、夕張市においても、少しでも早く実現してほしい。

(事務局回答)

⇒ KPI を設定している平成 31 年度とは、あくまで今回策定する総合戦略の終期を示したものであり、「平成 31 年度『までに』」少なくとも 2 箇所を整備する形で検討している。ご指摘のとおり需要のある事業であると認識しており、スピード感をもって取り組んでいく。

(高野委員回答)

⇒ 夕張市子ども・子育て会議にて当該議題についても議論しており、沼ノ沢保育園では、平成 28 年度から一時預かり事業を開始予定である。

- 「②子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業」に係り、助成額は具体的にどの程度の額を検討しているか。

(事務局回答)

⇒ 他市町村の例を見ると、1 件あたり 20～30 万円程度。しかし、他市町村よりも大きな額にしなければ、パフォーマンスが良くないとも認識しており、今後の更なる検討・検証が必要と考えている。

- ある市町村において、ふるさと納税で得られた税収のうち、非常に高い配分を子育て支援に充てているという事例を見た。夕張市における現状はどうか。

(事務局回答)

⇒ ふるさと納税について、平成 27 年度における寄附総額は約 2 億円にのぼる。うち 2 千万円が返礼品としても、1 億 8 千万円もの財源がある。「どうせ言っても無駄だ」と諦め、行政任せにするのではなく、何が必要かともに考え、訴えていくことで、実現できることが沢山あるのだという認識を、あらためて共有したい。

(関連する委員意見)

- ・ 以前居住していた自治体では、高校生の英検受験や部活動遠征に際して助成制度があり、夕張に来た際にそうした制度がない理由を周囲に問うたが、「財政破綻した市でそんな制度できるわけがない」と言われた。しかし、PTA を交えて相談したところ、議会でも協議され、平成 28 年度から助成が実施されることとなった。諦めずに言い続けることで実現できるという、一つの例であると思う。
 - ・ 夕張高校のある生徒について NHK の取材があり、先日全道版だけでなく、全国版でも放送され、全国の知人から連絡があった。ある知人は「今までふるさと納税という『返礼品が何か』という観点でしか見てこなかったように思うが、『何のために使われるのか』という視点で寄附先を選択するようになった」と話しており、やはり前向きな事業に活用し、その事実を広く周知することで、更なる支援を喚起できると感じた。
- 高校は市にとって生命線であると思う。市内に高校がなくなれば、高校へ進学する年齢に達した子どものいる家庭は、一家で市外へ転出してしまう。高校魅力化は非常に意義のある事業であり、市としてもぜひお金をかけてほしいと思う。
 - 都会に暮らす人々には、自然の中で子どもを育てたいというニーズが確かにある。今後、市外からも生徒を集めるうえで、学生寮や下宿の充実など、生徒が親元を離れても健康的に生活できる仕組みづくりが必要になると思う。また、学生寮等が充実することで、地域に活気が生まれることも考えられる。

(事務局回答)

⇒ 市としても、危機的な状況にあることは認識を共有したい。中学校への進学を機に、一家で市外へ転出するケースも決して少なくない。高校だけを単独で考えるのではなく、幼稚園・保育園から小学校・中学校・高校までと、どう繋ぐのかという議論が非常に大事。今年に入ってようやく危機的だという議論が進んできたが、高校は今後の地域社会を考えるうえで、非常に重要な位置を占めると認識しており、「(生徒数が) 減ることは仕方ない」で終わらず、「(高校を) 絶対になくさない」という想いを共有していきたい。

(4) 夕張市地方版総合戦略(素案)【戦略2】について説明・協議

(質疑・意見・要望・感想等)

- マウントレースイスキー場は、設備は良いのに営業時間が短く、遅い時間帯は滑走コースも限られている。仕事や学校が終わった後に滑りたくても、1時間程度しか滑ることができない。夕張市が持つ大きな魅力の一つであると思うだけに、次に経営を受託する事業者には、その点も考慮願いたい。

(事務局回答)

⇒ 交流人口の観点からも重要と認識している。実現を確約できるものではないが、事業者選定にあたり考慮すべき事項の一つとして留意したい。

- 合宿の誘致に係り、現状でも4～5月の「合宿の宿 ひまわり」は、宿泊研修等で予約で一杯の状況。そんな中、今年はある高校が初めて夕張で合宿を行い、課題として夕張市の再生方策について議論し、プレゼンを行うこととなった。最後のプレゼンに際し夕張市長が訪問したところ、生徒たちは市長の若さに大いに驚き、「自分たちも頑張れば市長になれるかもしれない」と盛り上がったという。
- 例年実施されている「高校生夕張キャンプ」に係り、夕張を訪れた東京の高校生たちに対し、様々な人が訪問・挨拶するものの、多くの人一度しか会うことができない。また、キャンプを通じて高校生から提案を受け、実施した事業も継続しているとは言い難い状況。
- いずれも、良い人材交流の場がありながら、上手く活用できていない例であると思う。もっと積極的に活用することで、地域にも恩恵があるのではないか。

- 「⑤廃校や空き店舗を活用した起業者支援」に係り、具体的にどのような支援を考えているか？

(事務局回答)

⇒ 現状における市の取り組みとして、「幸福の黄色いハンカチ基金」より、使途選定委員会の認可を受けた者に対して、20万円を上限とした資金助成を行う仕組みがあるが、このハンカチ基金についても、皆が必要と感じるものについて皆で審査し、上限額に捉われない、新たな支援の仕組みが作れないかと検討している。

また、経済産業局等の支援メニューの中には、企業診断士の審査を通して、事業に必要な助言をもらえるものもある。市独自の支援メニューを構築する以前に、こうした既存メニューをきちんと調査・把握し、活用したいと考えている。

- 「⑤廃校や空き店舗を活用した起業者支援」に係り、通常の基準では支援を受けることが難しい人等に対し、夕張独自の基準を設け、金融支援を行うといったことは、市内金融機関に可能か。

(鶴野副委員長・平畑委員回答)

⇒ 支店独自の融資基準を設けるといことは難しい。可能になるとすれば、本部と協議し、その了解を得たうえで「夕張モデル」とでもいべきものを新たに構築する必要がある。

(事務局回答)

⇒ 市としては、融資に限らず、経営面における指導・助言等の側面支援を担っていただきたいと考えている。

- 「⑤廃校や空き店舗を活用した起業者支援」に係り、夕張市内では廃業は多くとも新規創業の例が少なく、相談した結果「どこに聞いたらいいかわからない」と言われたこともあった。夕張市として「若い人に起業してほしい」ことを前面に打ち出し、「こんなに教えてくれるなら、ここで起業してみよう」と思ってもらえるよう、情報発信に注力すべきと思う。
- 交流人口 10 人による地域への恩恵 ⇨ 市民 1 人分の納税、と言われている。地域財産はそこかしこに眠っており、こうした市民・行政・事業者・金融機関などの垣根を超えて議論することで、新しい活用の仕方も生まれる。もっと積極的に色々な議論を行うべきだと思う。
- 研究の一環で夕張のまちづくりに関わってきたが、夕張の人のやさしさや地域の魅力、そして学生の自分でも必要としてもらえるのだな、という思いを持ち、夕張の魅力について再認識した。
【戦略 2】に挙げられた施策はハード面と密接に関わるものが多いと思うが、一方で、夕張の内面に触れる機会をいかにつくるかということが、交流人口の増加や、ひいては定住の促進を考えるうえで、非常に重要な意味を持つのではないかと思う。
- 交流人口を考えるうえで、近隣自治体との連携は非常に重要であると思う。「⑨空知総合振興局及び管内市町村との広域連携」にも記載があるが、夕張市内には宿泊施設が充実していることから、近隣市町村を目的とする観光客を取り込むことも可能であるし、仮に拠点が夕張でなくても、連携を通して滞在時間の拡大をはかることは可能。まずは積極的に連携に入っていくことが大切であると思う。
- 北海道は世界中でも有数の豪雪地帯であり、新雪を求めて世界中から観光客が集まっている。スキーを目的に北海道を訪れた外国人観光客の多くは、1～2 ヶ月かけて道内を周遊するコースを取っているが、残念ながら夕張はまだ知られていない。
国内でも外国人向けのプロモーションに成功している自治体は多く、また「北海道」自体がブランドとして、世界中で良いイメージを持たれている。夕張の雪は質も非常に良く、世界に向けてプロモーションすることで、更なる交流人口を獲得できる可能性を持っている。
- 国は 2020 年の東京オリンピックに向け、海外からの観光客数 2 千万人を目標としていたが、すでに来年にも 2 千万人に達しそうな勢いであり、結果として宿泊場所が不足している。
こうした状況を受け、民泊や空き家・空き室の活用を進めている自治体も多く、夕張としても可能性があるのではないかと思う。
- 民泊について、農家と連携した事業展開等ができれば良いと思う。

(5) 夕張市地方版総合戦略(素案)【戦略3】について説明・協議

(質疑・意見・要望・感想等)

- 小中学校のサポート委員会議において、「子どもの通学手段がバスに限られる夕張市内では、補習授業を行いたくてもバスの時間に縛られるため、なかなか実施できない」という意見があった。デマンド交通を活用することで、こうした需要に対して柔軟な対応が可能になるとよいと思う。
- 平成28年4月からのJR減便に伴い、通学手段にJRを使用している生徒の一部は、部活帰りに1時間ほど待つ必要が生じる。減便そのものを変更することは難しいと認識しているが、何らかの形で緩和することはできないだろうか。

(事務局回答)

⇒ 交通に関しては個々の課題に対して個別に対応するというより、「南北を軸としていかに移動しやすい形にするか」ということと、「利用者数の少ない路線を、利用状況・予約状況に合わせて小型バス等で機能的に動かす」ことが重要。

また、ご意見のとおり需要がありながら運行のない状況がある一方で、ほとんど乗客がいなくても関わらず運行しているバスもあり、かつて決めた運行体制が現在ミスマッチを起こしている。ゆえに、利用実態に合わせて走る体制に変えていく必要がある。

デマンド交通には、利用者にも「予約の手間」が生じるが、夕鉄バスもJRも苦しく、乗る人も少ないという状況の中で、「持続可能な交通」を模索するためには、そのひと手間を乗り越えていかなければならない。今より利便性を高めるということは難しくとも、今より悪くならないようにどう維持すればよいか、ということは皆で知恵を出し合うことで、実現していくことが可能と考えている。

コンパクトシティの推進という観点からも、移動手段を考えることは重要である。

- 「③市有林を活用した薬木・桜育樹プロジェクト」に係り、現在、薬木に限らない夕張市内の樹木を用いた事業展開について、他市町村と連携する形で実施を検討している。既に正式な依頼を受けているものもあれば、担当者レベルで協議しているものもあるが、広域連携を通じた森林資源の活用により、雇用を創出するという一方で、もう一つ項目立てを行いたいと考えている。

(事務局)

⇒ 了解。着眼点を変えたり、情報をきちんとキャッチすることで、夕張に新しい価値が生まれるという、素晴らしい例であると思う。

- 交通に関して、海外ではバスも電車もなく、ヒッチハイクで移動する文化が浸透している地域がある。免許や万が一の事故時等の問題はあがあるが、たとえば市民の方から送迎に御協力いただける方を募集する等して、地域で送迎の問題を解決していく、といったことも検討できるのではないかと。

(事務局)

⇒ 今まで「常識」とされてきた既存のあり方を少しずつ打ち破りながら、新たなあり方を模索していく姿勢は必要であると思う。

- 「基本的な方向」や「①高齢者や子育てママが働きたいと思う仕事づくり」で触れられているとおり、「自分ができる働き方」が認められる環境づくり重要。子どもを預かる機能と合わせて、週一日二日であれば働けるであるとか、事情に応じた色々な働き方を受け入れられる職場が整備されることが大切であり、重点を置いてほしいと思う。

(事務局)

⇒ 人材管理を主業務とする事業者等は、個人に合わせた働き方と、それに応じた細かな勤務シフトを管理するノウハウを持っていると思う。こうしたノウハウ等も学びながら、デマンド交通の運転手に限らず、働く人々の都合に配慮した仕事の形を構築していく。

- 夕張メロンの栽培に当たり、法人化等の大規模化した事例は聞かないが、大規模農場化するにはどういった課題があるのか。

(小林委員回答)

⇒ 一番大きいのは管理の難しさ。機械化・マニュアル化が難しい作業が多く、経験値がものを言う要素が大きいことが原因であると思う。

また、山間地域で畑として使える面積が少なかった夕張において、収益性の高さからメロン栽培が始まったという元々の経緯がある。本来であれば畑を休ませながら、順繰りに畑を変えながら栽培することが望ましいが、現状は畑をほぼフル活用している状況にある。加えて、働き手が確保できず、「広げたくても広げられない」という側面もあるかと思う。

- 夕張メロンの栽培には2日で300Lの灯油を使うなど、冬期の燃料費負担は大きい。CBMの活用により、こうした状況を改善する事業展開などが可能になれば、という期待を持っている。

(6) 夕張市地方版総合戦略(素案)【戦略4】について説明・協議

(質疑・意見・要望・感想等)

- 市外から夕張への転入を検討する一つの要素として、教育が重要であるというアンケート結果があった。今夕張では高校教育に重点を置いているようだが、小中学校の教育支援も積極的に行わなければ、中学校への進学に際して市外へ転出するという例もある。

(事務局回答)

⇒ 当然ながら、小中学校教育を無碍にしているわけではない。現在高校で起きている問題は、小中学校から続くものである一方、小中学校と高校の間には市教育委員会と道教育委員会との壁があり、入り込んではいけないという先入観のようなものがあった。

しかし、幼稚園から高校までの間に、小中高それぞれがどのような教育を行い、繋げていくかというビジョンに沿った教育を実現することが重要であり、市教育委員会も教育大綱という「市の子どもをどう育てるか」というビジョンを策定したわけであるから、縦割りの発想は排除し、市教育委員会の中で積極的に議論する必要があるものと思う。

今、高校の取り組みが先行しているのは、高校の先生方とPTAが議論し、もがきながらも具体的な方向性を模索してきた結果である。こうした議論を、小中学校においても早急に実施していくことが必要と考える。

- 先日のゆうばり国際ファンタスティック映画祭の実施に係り、運営の一部に高校生の助力を得た。本人も「今まで経験したことのない経験ができ、楽しかった」と話していたが、それ以上にこちらから見た姿も頼りがいがあり、見違えたものだった。
夕張には豊富な地域課題・地域教材があるので、これらを活かした郷土愛教育を行ってほしいと思うし、自分自身も関われる範囲で行っていきたいと考えている。

(事務局回答)

⇒ 平成27年度のふるさと納税による寄附額 約2億円のうち、1,500万円は「教育に使ってほしい」と寄附者から用途を指定いただいている。これだけの財源があるのだから、言っても無理・無駄ではない。現場の想いや意見をきちんと積み上げ、実現していくことが重要。

- 「よその町へ行ったとき、自分が夕張出身だというのが恥ずかしい」という人がいた。親世代、あるいはさらにその親世代から夕張に住み続けている人がそうした想いでいるとなれば、学校教育の力だけでは変えることが難しいように思う。子どもだけでなく、親子で夕張の魅力を感じ取れる場があるとよいのではないか。
- 昨年夏、夕張高校の3年生たちと一緒に、これからの夕張を考えるワークショップを実施した。内容としては、マスタープランや清水沢の拠点案について説明した後、雇用や子育て等、今後夕張がどのようなまちづくりを実施していくべきかを議論した。その際、多くの生徒が夕張に住み続けたいと話し、主体的に議論を交わしている姿が見られた。
こうした議論は「自分が住むまちを良くするため、自分たちに何ができるか」主体的に考え、行動する気風を醸成するための良いきっかけとなるように感じた。

(7) 夕張市地方版総合戦略(素案)【戦略5】について説明・協議

(質疑・意見・要望・感想等)

- デマンド交通実証実験の結果から見えてきた課題などはあるか。

(事務局回答)

⇒ デマンド交通とは、将来的には交通結節点をつくり、そこを中心とした交通体系を構築するうえで一つの交通機関のあり方として検討している。

今回の実証実験は南部と清水沢を結ぶ形で実施しているが、南部の交通状況等を勘案し、利用者数の少ない時間帯の路線バスを一部置き換えするとともに、路線バスが走っておらず、地域住民から要望の強い時間帯に増便する形で実施したものである。

アンケート結果は比較的否定的な意見が多かったが、その多くは受託者都合から予約の受付が「2日前まで」となってしまったことに対するものだった。逆に肯定的な意見としては、「家の近隣まで来てくれるのであれば、慣れれば良いのでは」といったものもあった。

先程も述べたとおり、今回の実験は南部ー清水沢間に限ったものだが、今後、利用状況に合わない運行をしている路線等にデマンド交通を取り込んでいくことで、課題を解決できる可能性があると感じている。

(8) 全体を通して、各委員より一言

- 行動することが一番大事。行政のみならず、市民を巻き込んで動いていく必要がある。
自分もまた、一市民として、また企業人として動いていきたい。
- 夕張の課題と今後を考える、良い場に参加させていただいた。会社として、個人として、この場に参加している皆さんや、参加していない皆さんも含め、ともに夕張を盛り上げていきたい。
- こんなにたくさんの方が夕張のことを真剣に考えているのだと、非常に心強く感じた。
- 自分も「自分事化」して頑張りたい。
- ここで出た内容を言いっ放しにせず、実現していくことが大切。自分自身も行動していきたい。
- まずは関心を持つことが大切。「まちが好きだ」で終わらず、情報を共有し、行動することで地域が活性化すると思う。
- まずは、自分ができることをひとつひとつ、今できることを今すぐにやっていきたいと思う。
- 「夕張のこういうところがだめだ」という意見も、まちのことを考えているがゆえの言葉なのだと思う。言うだけではなく、実際に「どう動いたらいいか」をあらためて考えていきたい。
- 微力ながら、今後も頑張っていきたい。
- 今回の計画は「作って終わり」ではなく「皆で磨き上げていくもの」だと考えており、今回立てた目標も「達成するためのもの」ではなく「上回るためのもの」であると認識している。今後も皆さんとともに力を合わせ、よりよい夕張市をつくるため頑張っていきたい。
- 情報の発信を行政任せにせず、我々ひとりひとりが行うことで、様々な効果が期待できるとあらためて感じた。
- 勤務する法人が市のためにできること、自分が個人としてできること、両方を考え、実施していきたい。
- 方向は見えているので、課題に向かって進んでいけばより良い夕張に向かえると思う。
- 実際に計画が動き始めた後も、進捗管理等を策定委員の皆さんと進められたら良いと思う。また皆さんとお会いできる場を楽しみにしたい。
- 皆さんの夕張に対する強い想いを感じた。高校生の自分たちにできることは少ないかもしれないが、今後少しずつでも夕張が良いまちになっていく手助けができればよいと思う。
- 高校の同級生たちに今回自分が学んだことを広め、自分自身も地域課題の解決に取り組んでいきたい。
- 現場の声がどこに届くのかな？と想っていたが、今回の会議で様々な意見を聞き、あらためて、未来の子どもたちのため、現場の声を伝えていきたいと思った。
- この会議を通して、「自分ももっとできる！」という想いを持った。旅行事業の資格取得支援など、自分がやってきたことを、何か夕張に残したいとあらためて感じた。
- 一人でやると単発で終わってしまうことは沢山あるが、沢山の人を巻き込むことで、繋げていくことができる。この場で得られた繋がりを大切に、次に繋げていきたい。
- 今回の戦略の中で夕張高校が占める大きさに対して、期待を持つとともに、高校はそれに応えなければならないという想いを新たにされた。平成 28 年度に夕張高校は 80 周年を迎えるが、次の 90 周年に向けて教育が続くようにしていかなければならない。総合戦略に示された 2 つの指標を平成 31 年度までに達成できるよう取り組んでいくので、応援をお願いしたい。
- 研究機関として参加させていただいたが、今回の委員会や計画を踏まえ、何を考え提案すべきか、自分も一緒に考えていきたい。

- 夕張市地方版総合戦略は、スピード感があり具体的で、誠意を感じた。それぞれの政策実現に向け具体的に行動することも大事だが、「想い」を周囲に発信していくことが委員として一番大切なことではないかと思う。今後フィールドが変わっても、自分も発信を続けていきたい。
- 拙い司会で委員長を務めさせていただいたが、皆様のご協力により、ひとまず無事終了された。あらためて感謝申し上げます。

(9) 今後の予定について

3月14日（月）～24日（木）	パブリックコメントの募集
3月25日（金）頃	パブリックコメントの結果及び策定委員意見を集約・策定委員に通知
3月28日（月）頃	夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略（案）策定委員長より市長宛に手交 夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略策定

4 閉会